

市指定文化財<史跡>

ほっぶくじごりんのとう 北福寺五輪塔

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市袈裟尾 北福寺



五輪塔は下方から、方(四角)、球(円)、三角、半球、宝珠形の五輪を積み上げ、それぞれ地・水・火・風・空の五大を表したもので、卒塔婆(供養追善のため墓に立てる上部を塔型にした細長い板)の一種である。各輪に1字ずつ梵字(ぼんじ)が刻まれる場合が多く、他に造立の趣意、紀年、施主名などが地輪に刻まれていることがある。密教に由来し、平安中期頃から供養塔、墓塔として用いられている。

北福寺の五輪塔は高さ117cm、基礎15cm、地輪31.4cm、水輪28cm、火輪21cm、風・空輪21.5cmの1基で、水輪に梵字が刻まれている。

正面に「建武二年八月七日未時、當山院主藤原力丸 生年十三入滅」とある。建武2年(1335)は、13代菊池武重が足利尊氏に箱根竹下の戦いで敗れた年である。五輪塔の多くは武士層により造立されたという。

この五輪塔は、市内では東福寺に所在する菊池覚勝墓五輪塔きくち かくしょうに次いで古く、火輪の屋根の反りに特色がある。